



**AIRES**

**V** ISCOUNT

INSTRUCTIONS FOR USING

## AIRES VISCOUNT のお買上げに際して

アイレス バイカウントをお買上げいただきありがとうございます。いまからこのカメラがあなたと一緒に生活の記録係として、撮影の夢を実現いたします。適切な取扱いと手入れによっていつまでもご愛用下さるようお願いいたします。

すでにご承知のごとく弊社は、二眼レフでは最高峰のアイレスオートマツト、35ミリではすぐれた機能を誇る各種アイレス35群、特に日本最初の「大口径F 1.5・F 2 レンズ（レンズシャッター用）、トリミング・レンジ・ファインダー、レンズ交換式アイレス35 V」等数々の新機構を他社に先がけて完成、その優秀な技術は全カメラ人によって立証されています。

アイレス バイカウントは、近代的な生産設備にこのすぐれた技術陣の英智を結集して完成した35ミリカメラです。最高の画面構成力を発揮する H. コーラルレンズ、完璧なライトバリュースャッター、セルフタイムミラーに輝くトリミング・レンジ・ファインダー、アンチショックマウント、コンバージョンによる望遠・広角撮影等、35ミリカメラの速写性、機動性を十分に発揮できる機構を備えています。

あなたの感覚と技倆をこのカメラにたくして撮影の楽しさを味わってください。

なおアイレスカメラの性能と品質については十分な自信をもち長期3ヶ年の品質保証をしております。

## AIRES VISCOUNT の 使 い 方

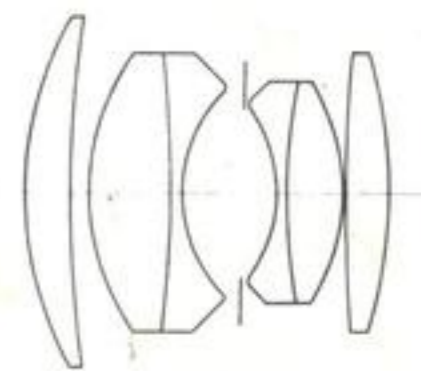
写真上達の第一歩は、あなたのカメラによく慣れることです。最高の性能を発揮させるために、各頁をよくお読み下さい。

### アイレス H. コーラル レンズ AIRES H. CORAL 1:1.9 f=4.5cm

レンズ製作史に特筆される弊社技術陣が生んだアイレスバイカウント用H.コーラルレンズは、撮影に際して素晴らしい威力と描写力を発揮し、きっとご満足いただけるものと信じます。

H.コーラル F1.9 4.5cmレンズは、最新の光学ガラスを使用した4群6枚構成のレンズです。解像力はもちろん画面構成力は最高クラスに位し、特に35ミリカメラに要求される大倍率の引伸しに必要な諸条件を完全に満した新時代のレンズです。

全面アンバーコーティング処理はカラー撮影に一段と美しい色調を見せます。



(レンズ構成図)

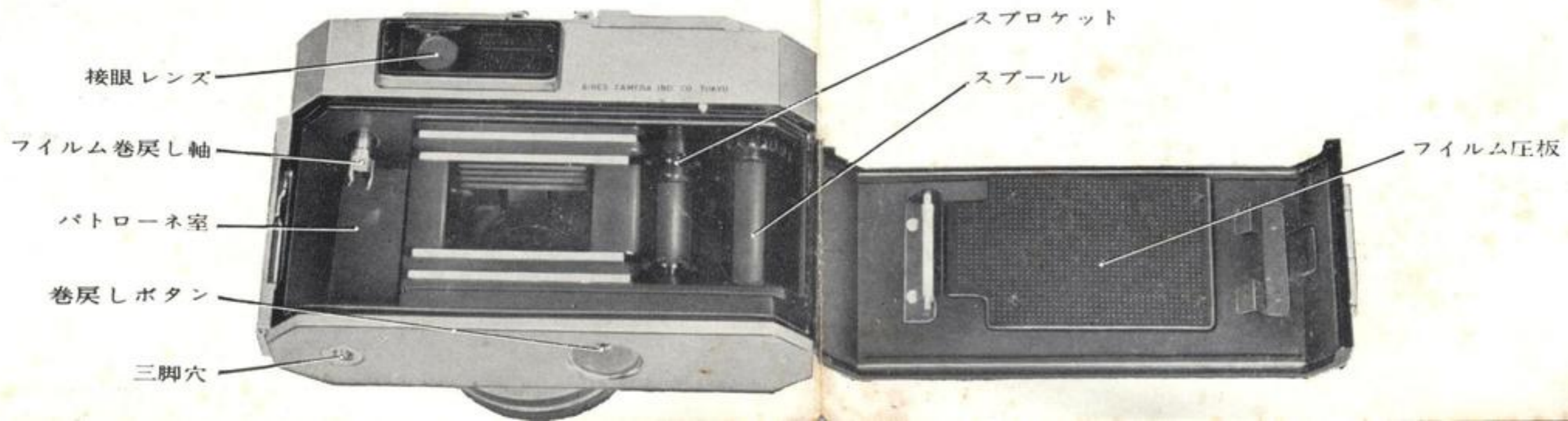
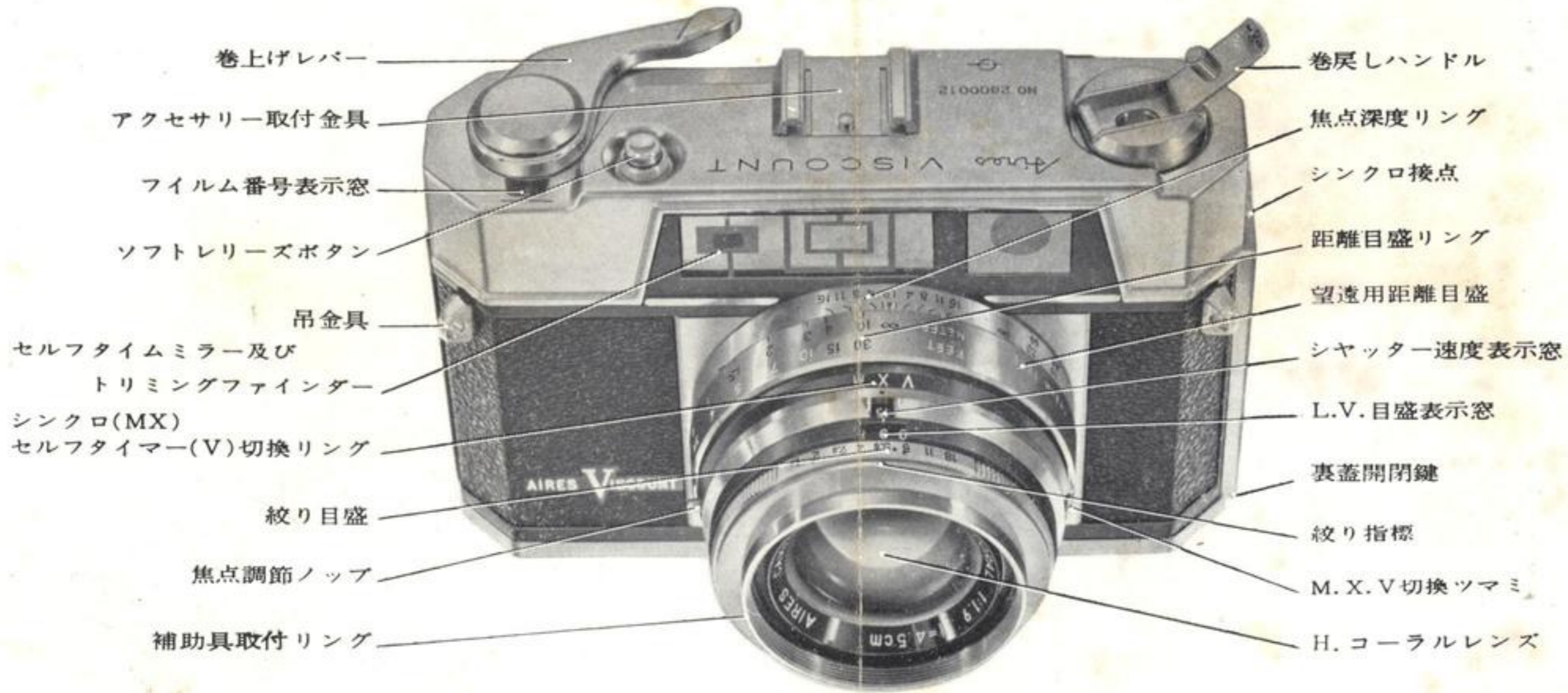
### 完璧なライトバリュースャッター

### セイコーシャ SLV

セイコーシャSLVは、ライトバリュースystemの採用によって等間隔の絞りと倍数系列のシャッター速度を連動させ、ライトバリュース目盛を動かすだけで自動的に幾組かの適正露出の組合せが決まる画期的な機構を備えています。

この他、倍数系列11段変速 (B 1 1/2 1/4 1/8 1/15 1/30 1/60 1/125 1/250 1/500 秒) 目盛と、速度変化に応じて全秒時に同調するMXシンクロ接点、自分で自分を写せるセルフタイマーを内蔵しています。

# 各部の機構と名称



## ファインダーの見方とピントの合せ方



写真説明…トリミングファインダーから見たものです。  
外側の光枠(白線)内がフィルム面に写る実画面です。  
上部左右と左下側の印は、パララックス匡正の指標です。  
中心部の小さい矩形は、ピントを合せる部分です。  
中側の赤枠(斜線部分)は望遠コンバージョンレンズ  
を使用したときの実画面です。広角の場合はファインダ  
ー視野全部が実画面となります。

アイレス式“トリミングファインダー”は、日本で初めて完成した画期的な機構です。この機能は35ミリカメラ全部に必要不可欠なもので、あらゆる撮影に役立つと全カメラ人に激賞されました。

従来のファインダーと全く異り、ファインダー全体が広くて明るく、明瞭な光枠によって、光枠内に撮影画面が得られ、しかも距離計に連動する独創的な機構です。

この光枠は、1mから無限遠∞までの被写体に有効で、1mから至近距離0.8mまでの撮影には、上部の左右と左下に見える印によって示される四角内に被写体を入れて下さい。これは、パララックス(視差)と云って、ファインダー位置とレンズ位置がはなれているために生じる視差を整えるためのものです。

このファインダーは、両眼を開いたまま、明るく広い視野内に明瞭な光枠で被写体と周辺の関係を見ながら撮影できますから、動い

ている被写体、スナップ、広汎な被写体、瞬間のチャンスでも逃すことなく撮影できる特長をもっています。

またカメラの構え方やファインダーの見方が悪いと構図を見誤ることがあります。そんな場合にこのファインダーは、見方や構え方が悪いと光学的に光枠が消えます。眼の位置が接眼レンズの中心にあれば、明瞭な光枠が見え視野と実画面が一致いたします。あらゆる撮影に役立つこのファインダーは本機の機能をさらに高めます。

## 正しいピントの合せ方……………(焦点調節)

トリミングファインダーを覗くと光枠の中心に、明るい小さな矩形の窓が見えます。ピント合せは、この部分で行います。

焦点調節ノブをまわすと、この矩形の部分に二重像が動きますから、二重像が重なり像が一つになるところまで焦点調節ノブを動かして下さい。

この二重像が合致したときにピントが合い、像が二重に見えたときにはピントが合っていない。

これは距離計と撮影レンズが連動しているためで、0.8mから無限遠までの、写したい部分にピントを合せることができます。

なお、カメラを使わないときは、カメラ保護のために距離目盛を無限遠(∞印)シャッター速度は $\frac{1}{60}$ 秒に合せておいて下さい。

コンバージョンレンズを使用した場合のピントの合せ方、ファインダーの見方は17頁をご覧ください。



(ピントが合った場合)



(ピントが合わない場合)

## アイレスバイカウントの構え方



正しいカメラの構え方は撮影の基本です。35ミリカメラでは、小型軽量で、画面が小さく、画面のブレが目立ちやすいので、しっかりした構え方をしないと折角の高性能も発揮できません。

つねに安定した撮影姿勢を身につけるように練習して下さい……

## ☆ 横位置の構え方 ☆

35ミリカメラは、横位置で操作しやすい形態にできているので横位置の構え方が写し易く安定します。

まず、両手でガッチリとカメラを保持し、右手人指しゆびはシャッターボタン、親ゆびは巻上げレバー、左手中ゆびを焦点調節ノックに軽く当てます。こう持つとピント合せから、シャッターを切るまでの操作が素早くでき、しかも次の撮影にそなえてすぐフィルムを巻上げることができます。カメラを支える手に力が入りすぎるとカメラブレの原因になるので適当な力で自然に持つようにします。

カメラは水平に構え、自分に都合のよい片方の眼をファインダーの接眼レンズの中心位置にきめ、なるべくカメラ本体が顔に多く密着するよう押しあてて安定させます。両肘を身体にピッタリとつけてシャッターを切って下さい。慣れると $\frac{1}{8}$ 秒でもカメラブレなく写つせるようになります。

## ☆ 縦位置の構え方 ☆

写しやすい横位置にくらべると縦位置の撮影は比較的写しにくいようです。被写体によっては縦位置の必要がありますから、練習によって慣れていつでも写せるようにして下さい。

縦位置の構え方は、横位置の構え方からそのまま縦位置に構える方法もありますが、一番安定する構え方として、カメラを中央に置き、額と鼻にカメラを密着させ、左手でカメラを額に押しつけ、右手の親ゆびで静かにシャッターを切る方法をおすすめします。この際カメラは垂直にして右肘をしっかり身体につけるようにして下さい。この構え方は速写性にやや欠けませんが安定度の高い方法です。

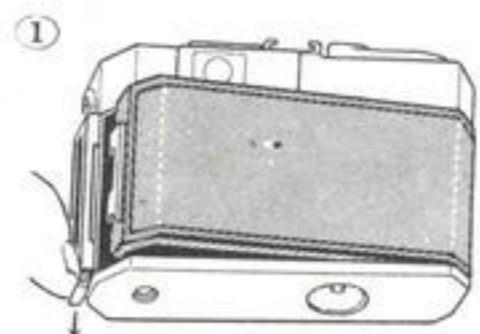
## ☆ 構え方のいろいろ ☆

この他 特殊な撮影の場合に、この基本の構え方を応用した方法があります。たとえば、電車やバスの中で動揺の少ない瞬間を選んで撮影する方法、室内では椅子や机等、街頭では地物を利用して姿勢を安定させる方法、この場合はスローシャッターでも容易に撮影ができます。またスナップ撮影・動体撮影等被写体の動きの変化に応じて次々に撮影をする場合や、人に気づかれずに撮影するかくし撮り、人混みの中で構えられないめくら撮り等々、いろいろな撮影方法があります。

どんなときでも、どんな構え方をしても、つねに安定した構え方をするように心がけて下さい。基本の構え方を卒業したら、いろんな構え方を練習してよく慣れて下さい。

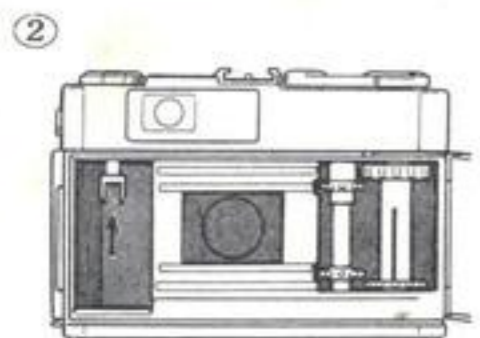


## フィルムの入れ方

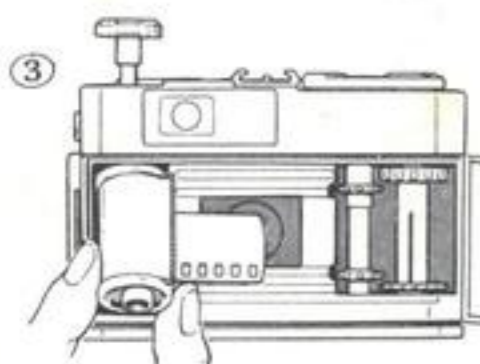


① 本機には、パトローネ入りの35ミリフィルムをご使用下さい。  
フィルムは、裏蓋を開けて入れます。

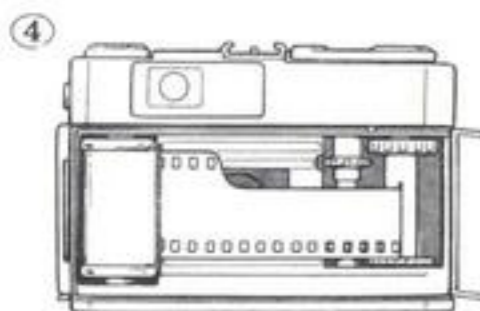
### フィルムの入れ方の順序



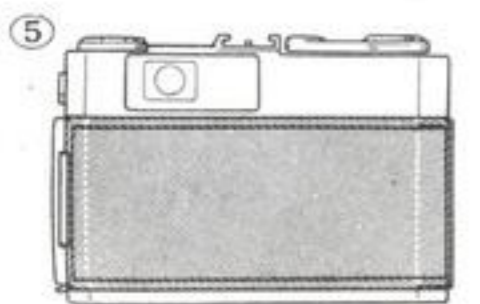
① 裏蓋はボデー横側の裏蓋開閉鍵を下に引き出して開きます。フィルムの出し入れはホコリのたたない日陰か暗い場所で行って下さい。



② フィルム巻戻し軸をゆびで押し上げて、パトローネを装填します。



③ 装填後フィルム巻戻し軸をもとに戻してパトローネを固定します。



④ スプールの溝にフィルムの先端を差込みます。溝の位置が適当でない場合はスプールの両端にあるゆびがかりを廻わして溝の位置を動かします。フィルムをレール面にはめて、たるまぬように注意し、スプールに1回転くらいまきつけます。さらに、フィルムの両側にある穴（パーフォレーション）とフィルムを送る歯車（スプロケット）との噛み合いを確かめます。

⑤ 確実にフィルムが巻かれる状態にしてから裏蓋を閉めます。巻戻しハンドルを起して矢印の方向へ廻わし、パトローネ内のフィルムのたるみをしめつけます。  
これでフィルムは装填されました。

## フィルムの巻上げ方……（セルフコッキング） — 作動レバー式フィルム巻上げと同時シャッターセット

本機は、フィルムの巻上げと同時にシャッターがセットされるセルフコッキング方式を採用しています。しかも巻上げレバーは一作動ですから、いかなる連続速写にも適します。フィルムを巻上げない限りシャッターセットができないので二重撮影が防止されます。

### フィルム巻上げの順序

- ① 親ゆびで巻上げレバーを起します。
- ② 親ゆびを巻上げレバーにつけて右の方へ止るまで廻わします。
- ③ 親ゆびを離すと巻上げレバーはもとの位置に自動的に戻ります。
- ④ この操作でフィルム1枚分が送られ同時にシャッターがセットされます。

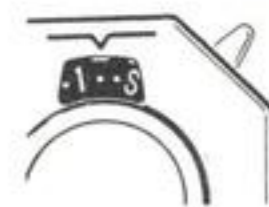
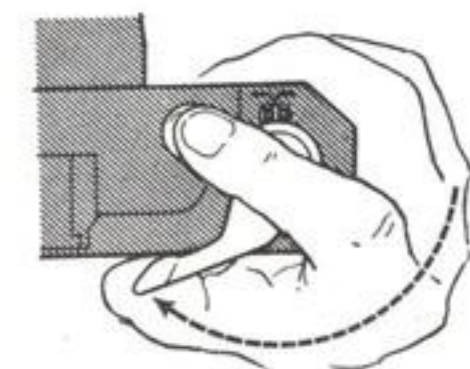
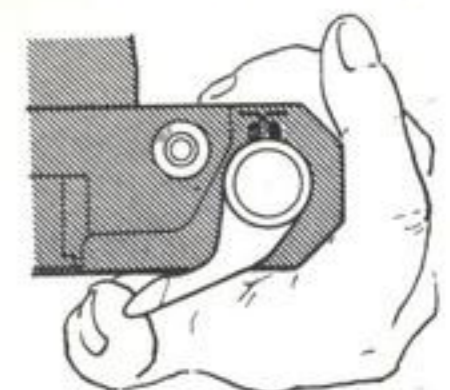
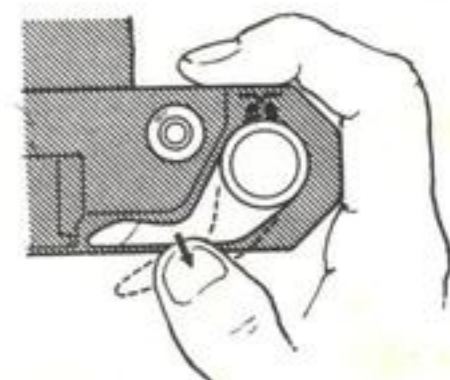
フィルムを入れたら巻上げレバーを廻わして、2枚分空写しをして下さい。

### フィルム送り確認と番号表示

本機は、フィルムを巻上げるときに巻戻しハンドルが廻転しますからフィルムを巻上げる状態が確認できます。

また、フィルム番号表示窓には撮影するごとに番号が進み撮影済の枚数を表示します。

注意！ 巻上げレバーを途中で止めるとシャッターはセットされませんから止るまで廻わして下さい。シャッター保護のためにシャッターセットは撮影の直前にするよう心がけて下さい。



番号表示窓

## フィルムの巻戻し方

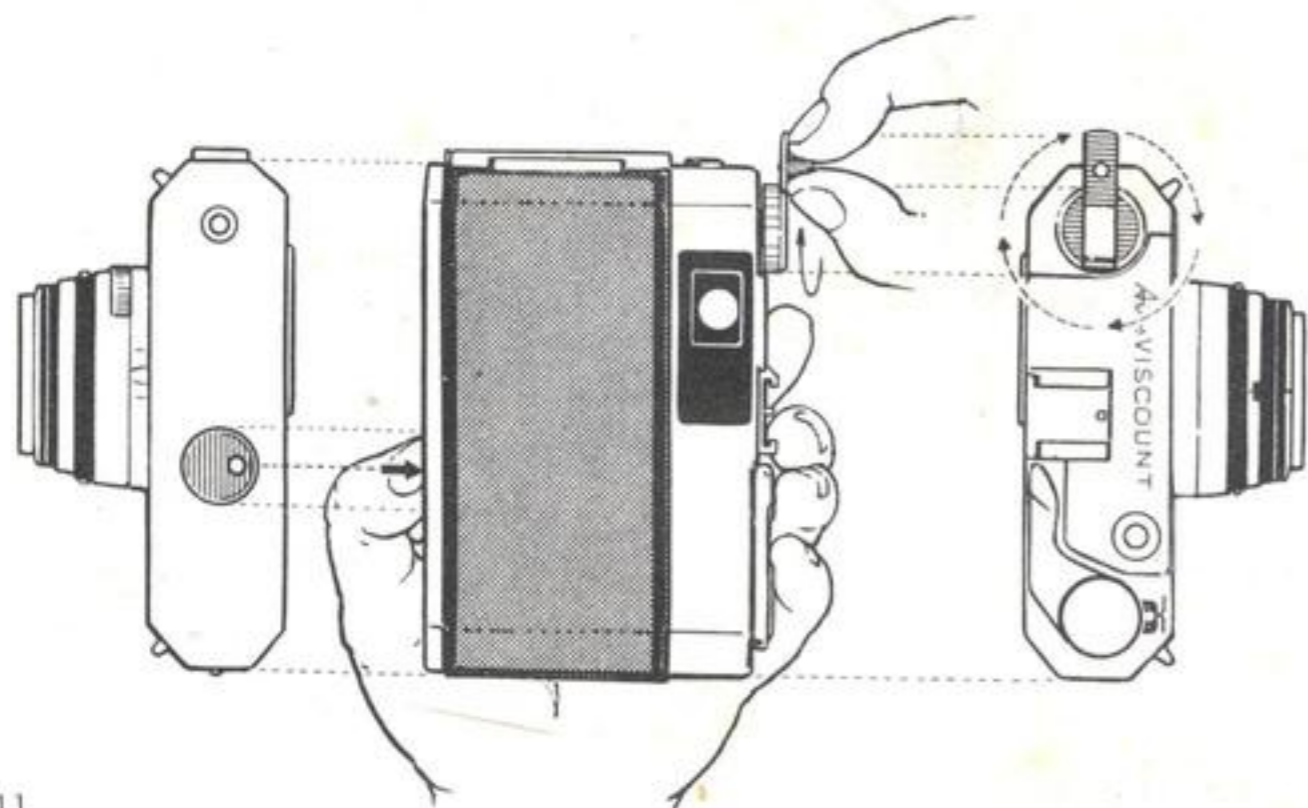
撮影が終わったらフィルムを巻戻します。

35ミリフィルムは、パトローネ内に遮光されています。撮影中はハダカのまま、スプールに巻きとられています。そのまま裏蓋を開けると、折角写したフィルム全部が露光してしまいます。フィルム1本分の撮影が終わったら、必ずパトローネに巻戻して下さい。

本機は、フィルム1本分を写し終ると巻上げレバーに軽い抵抗を感じ、巻上げレバーが動かなくなりますからすぐ巻戻して下さい。

### フィルム巻戻しの順序

- ①図のように、巻戻しハンドルを起し、左手でカメラを持ちます。
- ②カメラの底にある巻戻しボタンを左手の親指で押します。
- ③巻戻しボタンを押したまま右手で巻戻しハンドルを廻わします。
- ④巻戻しが終わるころに軽い抵抗を感じフィルムの先端がスプールの溝からはずれ、巻戻しが軽くなります。
- ⑤さらに、一、二回廻わすとフィルムはパトローネ内に巻戻されますから裏蓋を開けてパトローネを取り出します。
- ⑥裏蓋を開けるとフィルム番号表示窓に示された撮影枚数番号は、自動的にフィルムを入れる前のSに戻ります。



## ライトバリュースystemについて

### 素早く適正露出を得るための機構

ライトバリューとは、被写体の明るさ(撮影明度)とフィルムの感光度の関係を数字によってあらわしたものです。この数字を光値数といい、通称L.V.と呼んでいます。

たとえば、SS級フィルム(ASA 100)を使用した被写体の露出が、絞りF11でシャッター速度 $\frac{1}{30}$ 秒とします。この場合、F16の $\frac{1}{15}$ 秒、F8の $\frac{1}{60}$ 秒、F5.6の $\frac{1}{125}$ 秒、F4の $\frac{1}{250}$ 秒、等はF11の $\frac{1}{30}$ 秒と同じ露光量です。この露光量をL.V.数字であらわしたものがライトバリューです。従って同じL.V.の中に幾組かの露出があることとなります。この露出を機械的に組合せたものがL.V.システムです。

従来は露出を決める場合に、絞りとシャッター速度を別々に合せておりましたが、L.V.システムではL.V.を合わせるだけの一操作でできます。

まず電気露出計か簡易露出表(14頁)で被写体のL.V.を求めます。次に求めたL.V.数字をL.V.表示窓に合せます。

たとえば、適正露出がL.V.12の場合はL.V.リングを廻わしL.V.表示窓に12をだします。

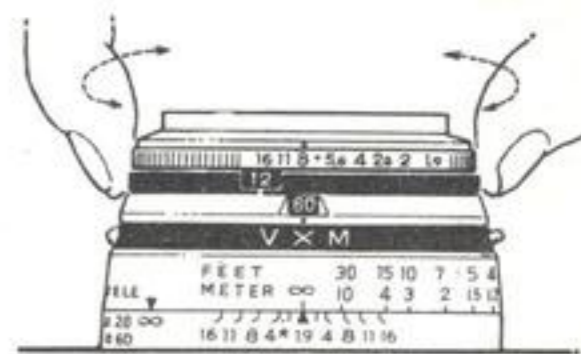
このとき下記の露出(絞りとシャッター速度)が自動的に決ります。

F 2.8 ~  $\frac{1}{500}$  秒    F 4 ~  $\frac{1}{250}$  秒    F 5.6 ~  $\frac{1}{125}$  秒  
F 8 ~  $\frac{1}{60}$  秒    F 11 ~  $\frac{1}{30}$  秒    F 16 ~  $\frac{1}{15}$  秒

この組合せの範囲内の露出は何れも同じ露光量となっています。

### L.V.目盛と絞り目盛の動かし方

L.V.目盛はL.V.リングを廻わすとL.V.表示窓にあらわれます。L.V.システムによって幾組かの露出が自動的に決りますからL.V.を表示窓に合せたらそのままにします。このとき絞り目盛も一緒に動きますから絞りは指標で読みとれます。本機は中間絞りが使えるのでL.V.目盛は半目盛ずつのクリックストップ式となっています。(L.V.12.5、L.V.13.5等が使えます。



## ライトバリュー目盛による簡易露出表

### L.V.を表示窓に合せたら……

撮影には被写体に一番適したシャッター速度か絞りをご使用下さい

L.V.を合せますと、同じL.V.内で幾組かの露出がありますから、被写体に一番適したシャッター速度か絞りをおえらび下さい。

### シャッター速度目盛の動かし方

シャッター速度目盛は、L.V.リングの後方にあるシャッター速度リングを廻わすと表示窓にあらわれます。本機はL.V.システムによってシャッター速度リングを廻わすと、L.V.の範囲内でL.V.リングと一緒に動きます。L.V.リングと一緒に動いている範囲が同じL.V.の露出（絞りとシャッター速度の組合せ）です。

なお、本機はシャッターの中間速度は使用できません。

### 露出を決める基礎知識(撮影条件が違う露出の変化)

露出を決めることは撮影の第一歩です。適正露出を決めるには、電気露出計か簡易露出表による方法が一番確実ですが下記のようにいろいろ条件によって露出を変えなければなりません。次頁の露出表と対照してよく理解して下さい。実際に撮影をはじめると、いろいろの被写体にぶつかることと思いますが、どんなときでも適正露出によって、よいネガ(写真原板)をつくる努力をして下さい。

フィルム感光度	感光度が早くなればなるほど露出を少くし、遅くなればなるほど多くします。
季節	春と秋の光線を基準にして、夏は露出を少くし、冬は多くします。
時刻	一日のうちでも時刻によって変化します。正午頃が最も明るいので露出を少くし、朝夕は多くします。
天候	快晴→晴→薄曇→曇→雨の順に露出を多くします。雪の場合は表面反射が強いので例外です。露出は曇より少くします。
光線の方向	順光線→斜光線→逆光線の順に露出を多くします。
フィルタ・人工光	フィルタは色の濃度に応じて変化します。フィルタ・人工光を使用した場合は、変化に応じて露出を多くします。
被写体の明るさ	被写体の色とコントラスト、周囲の反射によっても変化します。また撮影場所や撮影距離によっても変化があります。

### 標準適正露出表 (SS級(ASA 100)を標準としたライトバリュー)

被写体	春	夏	秋	冬
	3・4・5月	6・7・8月	9・10・11月	12・1・2月
海、山、雪景、 展開した風景	16	17	16	15
普通風景	15	16	15	14
明るい街路 スナップ	14	15	14	13
戸外集合人物	13	14	13	12
戸外人物大写	12	13	11	10
日蔭又は窓際人物	11	12	10	9

例：SSを使用して春4月の昼頃戸外で太陽の光が十分に当たっている戸外の集合人物を撮影する場合には標準露出表の左の第1列の4番目の項目になりますからライトバリューは13になります。このとき、もしSY48Cのフィルタを併用したとすれば係数表によると-1ですから13-1=12になります。

フィルムがS級(ASA 50)なら係数表によると-1で13-1=12になりSSS級(ASA 200)なら+1で13+1=14となります。

註 ASA 800、400は増感現像を行う場合です。

### 天候・時刻・感光度・フィルタ係数表

天候	L.V.係数	感光度(ASA)	L.V.係数	アイレスフィルタ		L.V.係数
				黒白用	カラー用	
快晴	±0	800	+3	SL 39 C (無色)	# 1 A (Skylight)	±0
薄曇	-1					
普通曇	-1.5	400	+2	SY 44 C (淡黄色)	# 81 B (Cloudy)	-0.5
極曇	-2					
		200	+1	SY 48 C (黄色)	# 85 (Type A)	-1
時刻	L.V.係数					
午前10時 午後2時	±0	50	-1	G 55 C (緑色)	# 85 C (Type F)	-1
午前9時～10時 午後2時～3時	-1					
午前8時～9時 午後3時～4時	-1.5	25	-2	SO 56 C (橙色)	# 80 A (Photo-flood)	-1.5
		12	-3	SR 60 C (赤色)		-2.5



## 撮影に役立つ諸機構

### セルフタイマーの使い方

本機のシャッターには、セルフタイマーが内蔵されています。MXVと書いてあるリングを作動して、V印(白字)を指標に合わせるだけでセルフタイマーが使えます。作動時間は10秒前後で小さな音で作動します。

本機は独特のセルフタイムミラー式(ファインダー前部が鏡になっています)ですから、自分を写す場合にミラーの中心に両眼が見える位置でセルフタイマーを使えば、頭が切れたりする心配が全くありません。自分で自分を写す場合や自分もはいつた記念撮影等にセルフタイマーをご活用下さい。

このセルフタイマーは、リングを廻わしてからシャッターセットをしても、シャッターセット後にリングを廻わしてもすぐに作動します。特にセルフタイマーのセット後でも、リングを廻わすだけで解除できる特長があります。

なおセルフタイマーを使わないときは常時X(赤)接点にして置いて下さい。

### セルフタイマーを使ったシンクロ撮影

セルフタイマーを使ってシンクロ撮影をする場合は、M級閃光電球は $\frac{1}{30}$ 秒、F級閃光電球は $\frac{1}{60}$ 秒に同調します。

### 常焦点撮影について

絞りF8とF5.6の中間赤丸と10mの赤字距離に合わせると約5mから無限遠までの広範囲にピントが合います。これを常焦点撮影といってパノラマ的風景・スナップ撮影等に有効です。

### 赤外マークについて

赤外線用フィルムを使う場合は、赤外フィルムの性質上ピントを合せた距離目盛を赤外マーク(R)にずらしてから撮影して下さい。

## シンクロ・フラッシュ撮影には

シンクロ・フラッシュ撮影は、発光器と閃光電球をご用意すれば誰でも簡単に写せます。シンクロ接点に発光器のプラグをさしこみ、使用する閃光電球の種類によってMとXを使いわけて下さい。

M接点は、M級閃光電球を使えば全秒時に同調します。

X接点は、ストロボ発光器専用で、ストロボ発光器を使えば全秒時に同調します。

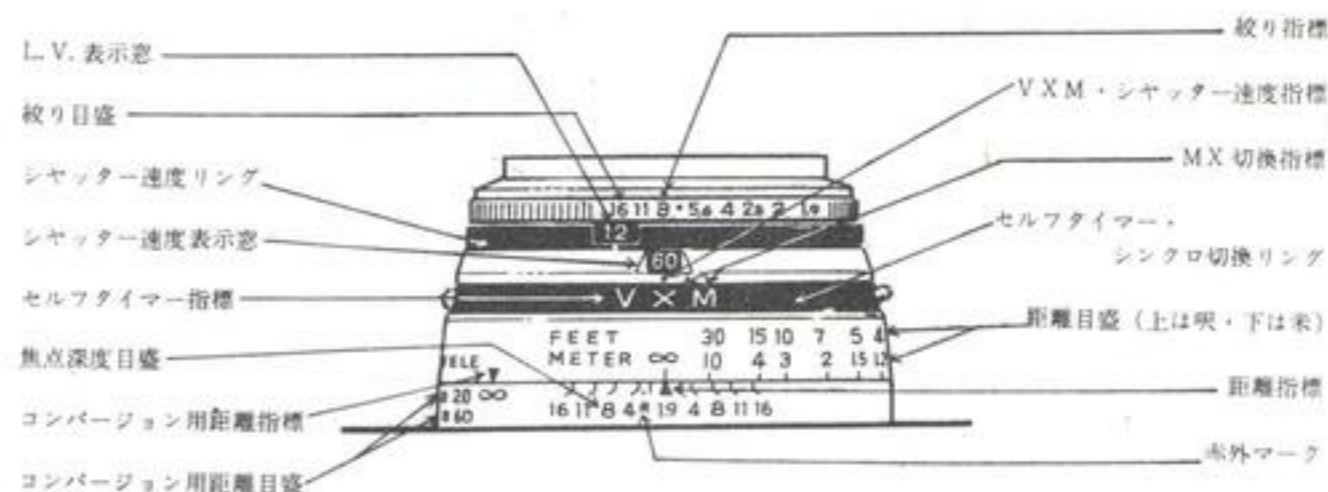
またF級閃光電球を使う場合はX接点で1秒 $\sim$  $\frac{1}{60}$ 秒に同調します。

MXの切換はシンクロセルフタイマーリングのつまみを押してから指標にM(緑)かX(赤)を合せて下さい。

なお、フラッシュを使わない場合は常時X(赤)接点に合せて下さい。

## 見易い目盛位置

本機の見易い目盛位置は上から一覧できます。カメラを保持したまま楽に調節できる位置はライトバリュースystemを有効に利用できるばかりか、本機の速写性・記録性・機動性を存分に発揮できます。



## シャッターレリーズボタンの利用

特殊撮影やスローシャッター等に必要ケーブルレリーズはシャッターボタンリングをはずしてカブセ式レリーズをご使用下さい。

## コンバージョン・レンズ・システム

本機には、専用の望遠及び広角のコンバージョンレンズ2本が用意されています。使い方は極めて簡単ですからご利用下さい。

このコンバージョンレンズを標準のH.コーラル・F1.9レンズに取り付けると、レンズを交換しないで、しかも標準レンズと同じ明るさでピント合せも本機の距離計で合せられ、望遠用は8センチ望遠レンズ・広角用は3.5センチ広角レンズとして撮影ができます。

なお、本機は最も重要なレンズとシャッター部分がアンチショックマウントシステムになっていますから安全度が高くなりました。

### コンバージョンレンズを取り付けた場合には……

**望遠の場合：**まずピントを合せます。ピント合せは、カメラの連動距離計で合せますが、無限遠以外はレンズの焦点距離が変化するので、合せた距離数字を望遠用距離目盛（焦点深度目盛の左横側… f = 8 cm TELE）の数字に合せ直してから撮影して下さい。

たとえば、ピントを合せたら距離目盛の数字が4 mに合ったとします。この4 mは標準レンズ用の距離ですから、望遠用距離目盛の4 mに合せ直して下さい。

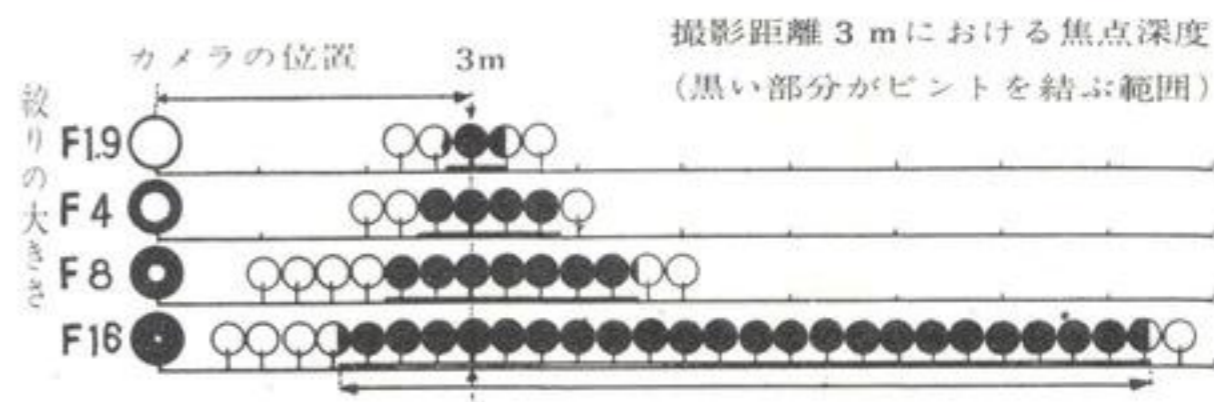
**ファインダーの見方** ファインダー内に見える赤線枠内が望遠8センチの実画面となりますから、この赤線枠内に被写体を狙って、（入れて）下さい。なお撮影距離は2.5 m～∞（無限遠）までです。

広角の場合は、ファインダー視野全部が広角用3.5センチの実画面となりますからファインダー視野全部に被写体を狙って下さい。

## 焦点深度の利用について

レンズは、被写体にピントを合せると、その前後のある一定の範囲までピントが合いますが、それ以外はボケる性質を持って居ます。このピントの合う範囲を焦点深度（被写界深度）といいます。焦点深度はレンズの特性に関係があるばかりでなく、レンズの焦点距離と明るさ（絞りの大きさ）によっても変化します。こうした焦点深度の性質を要約すると①絞りが開放に近い程浅くしぼる程深い。②焦点の前方に浅く、後方に深い。③被写体が近いほど浅く、遠くなるほど深い。④レンズの焦点距離が長いほど浅く、短いほど深いと云う特性を持って居ます。

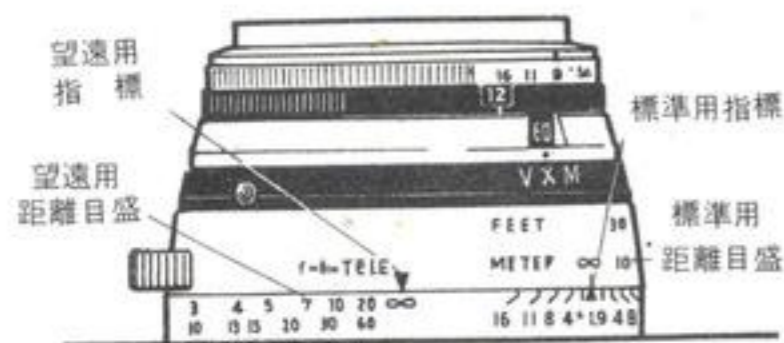
下図は、焦点深度の変化をあらわしたものです。たとえば、撮影距離3 mにピントを合せて、絞りをF4に絞ると2.56 mから3.89 mの範囲（1.33 m）が焦点深度でピントを結ぶ範囲です。本機にはこの範囲を示した焦点深度リングがあります。詳しい変化は下記の焦点深度表をご覧ください。この性質を撮影にも役立てて下さい。



焦点深度表 (AIRES H CORAL 1:1.9 f=4.5cm) (METERS)

F	R	0.5	0.6	0.7	0.8	1.0	1.5	2.0	3.0	4.0	10	∞
1.9	Rv	0.49	0.59	0.69	0.78	0.98	1.44	1.90	2.77	3.61	7.86	36.57
	Rh	0.51	0.61	0.71	0.81	1.03	1.56	2.11	3.27	4.49	13.76	∞
2	Rv	0.49	0.59	0.69	0.78	0.97	1.44	1.89	2.76	3.59	7.77	34.75
	Rh	0.51	0.61	0.71	0.81	1.03	1.56	2.12	3.28	4.52	14.04	∞
2.8	Rv	0.49	0.59	0.68	0.78	0.96	1.42	1.85	2.68	3.45	7.13	24.9
	Rh	0.51	0.61	0.72	0.82	1.04	1.59	2.18	3.41	4.76	16.73	∞
4	Rv	0.49	0.58	0.68	0.77	0.95	1.38	1.79	2.56	3.25	6.35	17.4
	Rh	0.51	0.62	0.73	0.83	1.05	1.75	2.42	3.89	5.61	23.5	∞
5.6	Rv	0.48	0.57	0.66	0.75	0.93	1.34	1.72	2.42	3.03	5.55	12.5
	Rh	0.52	0.63	0.74	0.85	1.09	1.70	2.38	3.95	5.89	50.5	∞
8	Rv	0.47	0.56	0.65	0.73	0.90	1.28	1.63	2.23	2.74	4.67	8.76
	Rh	0.53	0.64	0.76	0.88	1.13	1.81	2.59	4.56	7.36	∞	∞
11	Rv	0.46	0.55	0.63	0.71	0.86	1.22	1.52	2.04	2.46	3.90	6.39
	Rh	0.54	0.66	0.79	0.91	1.19	1.96	2.91	5.66	10.7	∞	∞
16	Rv	0.45	0.53	0.60	0.68	0.82	1.12	1.38	1.79	2.10	3.07	4.42
	Rh	0.56	0.69	0.83	0.98	1.29	2.27	3.66	9.34	42.1	∞	∞

註 Rv は焦点の前方で、Rh は後方。（この間にピントを結びます）



望遠コンバージョンレンズ

## カメラの手入れと保管について

☆カメラの手入れは、明日の撮影の準備です。ご使用後は必ずカメラの手入れと掃除をいたしましょう。

★いつも美しいカメラをお持ちになれるように、金属部は綿布で軽く拭きましょう。

★内部に入ったチリや砂は、フィルムの背面にキズをつけますから、筆や刷毛で払って下さい。

★レンズは、むやみに拭いてはいけません。乾いたキレイな筆か羽毛でゴミを払う程度に止めて下さい。とくに汚れたときは、ゴミを払い、よく洗いさらした綿布にアルコールをつけて軽く拭くようにします。それでもとれない場合は、カメラ店か専門のところでご相談下さい。

★カメラを使わないときは、距離目盛を無限遠(∞印)に合せて下さい。カメラに不慮の大きなショックを与えた場合に被害が少なくなります。シャッターの開放しは、シャッターに悪影響を与えます。またシャッター速度目盛は1/60秒以下に合せておいて下さい。

★よりよい保存はカメラの寿命を長くします。湿気の多い場所や、ホコリのたかるような場所にしまわないようにいたしましょう。

## 愛機の履歴

保証番号	No.	レンズ番号	No. 1153074
購入年月日	年 月 日	ボディ番号	No. 2876087
住所氏名			

## 専用アクセサリをご利用下さい

本機には、カメラの機構に適した各種の専用アクセサリが用意してあります。ぜひご利用下さい。

### 専用レンズフード

不要な光線を防ぎ明快な写真を仕上げるのに役立つばかりか、降雨、降雪等、あらゆる撮影や天候に必要です。室内でも使うように必がけましょう。

### 専用フィルタ

フィルタは、余分な光や強すぎる光を濾し、必要な光だけを濾しわける役目を果たします。自然の色彩や明暗感をそのまま写真にするためにご利用下さい。

アイレス・フィルタは、光学レンズと同様な製造工程で作られ、すべてにコーティングを施してあります。黑白用・カラー用として各種類があります。



### アイレスカメラ・サービス・ステーション

弊社は、お買上げのアイレスカメラが常に最良のコンディションにあることを願っております。ご愛機の整備のために本社かサービス・ステーションをご利用下さい。

本社：東京都新宿区西大久保1丁目437 TEL. 四谷(35) 1111  
 大阪：大阪市南区難波新地3番町54 TEL. 大阪(75) 5419  
 福岡：福岡市川端町5 TEL. 福岡(3) 4029  
 札幌：札幌市南1条西7丁目5 TEL. 札幌(3) 3771



株式会社 アイレス写真機製作所

東京・大阪・福岡・札幌